

2022 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日

令和5年2月27日

法人名

園名

学校法人正和学園

幼保連携型認定こども園正和幼稚園

まとめ

全体平均

4.43

第2章第2節 乳児期の園児の保育	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	四季が感じられる起伏に富んだ園庭で、草花、木々、生き物などと触れ合うことも多かった。日常的に土や水などの素材に触れ合うことを多く持つ体験が充実していた。年上の園児とも、共有体験を増やしていく。話したくなるような安心した雰囲気の中、園児は、自分なりの表現で伝えようとする姿がみられる。職員は、一人ひとりの伝えたい気持ちを尊重している。なお一層、一人ひとりの言葉や表現の背景について想いを巡らし、多角度から対話を重ねていく。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	人の意見に耳を傾けたり、自分の思いを伝えたりすることを日常的に行っている。知らない人にも積極的に話しかけることができるが、挨拶をせずに自分が伝えたいことを唐突に話し始めてしまうことが多い。様々な素材に親しむ環境が、園内に散りばめられている。保育者主導ではなく、園児が自ら気づき、不思議さを感じて、それについて探究している。一人ひとりのイメージを動きや言葉で表現していく姿が日常的にみられるようにしていく。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	同じ年齢で区切って育ちをとらえた一斉に行う保育・教育ではなく、保育者は、園児一人ひとりの姿に目を向けている。先にやり方を伝えるのではなく、園児自身が自ら試したり挑戦したりする過程を大切にしている。園児一人ひとりのペースに合わせて対応している。看護師も在中している。
第3章 健康及び安全	安全計画を設定している。毎月、時間帯や想定をかえて、避難訓練を実施しているが、計画段階で精査が必要な場合がある。園の行事などでは、警察官が通常より多く見回りを実施して下さるなど、地域との連携が図られている。学校110番も設置しており警察官がすぐに駆けつけてくださる体制がある。消防署とも連携がはかられており防災訓練の時には実施計画や報告をしている。
第4章 子育ての支援	保護者と園児の様子を分かち合うため、様々な媒体を利用しご家庭への発信を定期的に行っている。コロナ禍においても、少人数、分散型など、参加方法を工夫し、参加方法をご家庭が選択できるようにしている。地域活動も、年間通してコロナ感染症対策しながら継続して実施した。参加して初めてのご家庭同士お話しやすくなるような工夫はもう少し必要である。特別な支援が必要な園児に関して、行政との協力体制がとれている。個別支援も積極的に行っている。
第5章 職員の資質向上	定期的な園内研修を実施することができた。研修内容を吟味しながら外部講師を呼ぶ機会を設け、保育の質向上に務めた。保育者が自らの専門性を高めるために研修を受けることはできたが、その学んだことを自園の実践と照らし合わせて、自分なりの言葉で他の職員に伝えていく力が今後求められる。
総合	園児は、人の意見に耳を傾けたり、自分の思いを伝えたりすることを日常的に行うことができた。子どもの興味関心からひろがる探究型保育がより一層深まり、一人ひとりが主体的に、様々なことに関わる経験をもっていた。オープン保育室、アーケード、園庭など様々な場所にて自分で居場所を見つけ、それぞれが安心できる落ち着けるスペースにて過ごしていた。今後は、園児自身が園社会の一員として、自分たちの居場所を作り上げていく意識を高めていく。職員は、キャリアアップ研修など、自らの専門性を高めるために研修を受け、その学んだことを自園の実践と照らし合わせて、自分なりの言葉で伝えていく力が今後求められる。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	0	#DIV/0!
「3歳未満児保育」	32	4.13
「3歳以上児保育」	53	4.38
「教育保育の配慮事項」	10	4.80
「健康・安全」	29	4.55
「子育ての支援」	18	4.72
「職員の資質向上」	9	4.44
計	151	4.43

データグラフ

